

第26回通常総会リモート開催

いしかわ 農業法人だより

Ishikawa
Agriculture
Corporation
Magazin

6月10日に第26回通常総会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、ZOOMを活用したリモートでの開催となりましたが、全ての議案について原案どおり可決されました。任期満了に伴う役員改選については以下のとおりとなりました。

- ・ 会長理事 佛田 利弘 (株)ぶつた農産
- ・ 副会長理事 吉中 伸一 (有)能都ビッグファーム
- ・ 宮崎 数馬 (有)フアーマー
- ・ 濱田 栄治 (農)アグリスターオナガ
- ・ 林 浩陽 (株)林農産
- ・ 軽部 英俊 (株)六星
- ・ 吉田 義弘 (有)吉田農産
- ・ 井村辰二郎 (アジア農業(株))
- ・ 宮野 義隆 (農)ONE
- ・ 裏 貴大 (株)ゆめうらら
- ・ 瀬爪 忠 (有)内浦アグリサービス
- ・ 番場 睦夫 (有)ばんば
- ・ 岸 省三 (有)三共農園
- ・ 河二 敏雄 (有)かわに
- ・ 顧問

また、総会終了後に岩濱北陸農政局長(当時)との20年後の稲作を見通してと題し会員との意見交換会を開催しました。

なお、今年度から日本農業法人協会北信越ブロック理事に選出された井村会員においては、特別理事として活動していただくこととなりました。

また、先般行われた北信越ブロック会長会議において、日本農業法人協会北信越ブロック理事の補欠選出により当協会佛田会長も北信越ブロック理事となり、6月17日に開催された第42回通常総会及び第80回理事会において、日本農業法人協会の副会長理事に就任しました。

らくらく水稲管理



水管理をラクに！アクアポート

当協会アグリサポート会員の北菱電興(株)様からは自動給水装置の「アクアポート」をご紹介いただきました。設置が非常に簡単で慣れてくると僅か5分足らずでの設置が可能となります。また、使用しているユーザーからは水管理の為に圃場に行く頻度が減った等、その効果に会員は興味津々で話を聞いていました。

追肥を省略！ペースト2 段施肥

技術経営委員会(濱田委員長)では7月9日に金沢市内(農ONE圃場)にてペースト2 段施肥技術と稲作における水管理を省力化する水田用自動給水装置の現地研修会を行いました。ペースト2 段施肥においては肥料メーカーの片倉コープアグリ様のご協力のもと、肥料の特徴や現地での生育の様子等について研修していただきました。当技術は基肥を3cm〜7cmに施肥し、追肥を9cm〜15cmに施用できる技術であり、動力散布機を使用した追肥の重労働を省略できるのではないかと期待されます。また、肥料設計は基本的に自由に変更ができることから圃場条件や品種に合わせた農家独自のカスタマイズが可能となります。現地検討会には、全農石川県本部様、ヤンマーアグリ様、クボタ様の関係者も出席され、意見交換を実施しました。

各委員会の活動予定を共有

7月26日に第4回理事会をリモートにて開催しました。今回の理事会で、各委員会の今度の活動予定を共有しました。各委員会のメンバーと活動予定については以下の通りです。

政策提言委員会 (佛田利弘 軽部英俊)

- ・農業関連団体との意見交換会の開催
- ・コメ対策に関する意見交換会の開催
- ・予算説明会の開催
- ・政策提案意見の集約

技術経営委員会 (濱田栄治 吉田義弘)

- ・ドローンを活用した農薬散布等の実演会の開催
- ・安全講習等、各種セミナーの開催
- ・各種資格取得に関する研修の実施

組織活性化委員会 (宮崎数馬 宮野義隆)

- ・地域活動の開催
- ・会員数の拡大に関する活動の実施
- ・その他、組織の活性化に関する活動の実施

広報活動委員会 (林浩陽 吉中伸一 裏貴大 瀬爪忠)

- ・協会ホームページのリニューアル
- ・いしかわ法人だよりの発行
- ・SNS等を活用した会員交流及び情報発信

会長コラム

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種も徐々に済みかなりの摂取率となっているようです。一方でデルタ株と言われる新しいコロナウイルスが蔓延の過半を占めていると言われています。アメリカの報告ではワクチンを2度摂取しても4分の3の人がコロナウイルスに感染したという報告がニュースで流れています。コロナウイルスと人間の戦いは、人間を駆逐しようとするこのウイルスが人間の体を使って感染を広めていると言ふ事との戦いです。

今後、人類はこのようなバイオリスクとの戦いを延々と強いられるのかも知れません。そもそも、農業は様々な病原体との戦いの中で農産物の生産量を最大化し人間に供給するのが農業の役割です。農研機構等の研究成果には、ホソヘリカメムシが環境土壌中の殺虫剤分解細菌を取り込んで体内に共生させることにより、「殺虫剤抵抗性」を獲得し得るといふ現象が発見されたと言ふ論文があります。このカメムシのように、我々は戦うと言ふよりは、そういう生き物たちとの共存が必要なのかも知れません。

農林水産省は、みどりの食料システム戦略を今後展開し、環境持続型農業に大きな舵を切ることになりました。2現場では様々な生産への懸念がありますが、病害虫や雑草との共存または共存をする技術を構築する必要がありますのかもしれない。世界的な人口の増加も徐々に拡大しており穀物生産の不足が目立つようになってきました。また一方で日本の米は需要の偏在で過剰状況に陥っており、価格の下落が深刻に懸念されます。

改めて農業経営とは、どういう価値観や哲学を持って、どの方向に進むのかということが重要になっていきます。その進むべき道は、近隣の農業者や兼業農家も含めた地域のステークホルダーとの連携によって創られて行くと思います。今後石川県農業法人協会として、行政・農業関係団体・関係企業や地域等とさらなる連携を高め、少数派となっていく農業者が業界全体と連携して農業を発展させていく必要があると思います。(佛田)

熱中症にご注意ください

8月に入り、暑さがより一層強くなる季節となりました。連日熱中症等に関連するニュースが多く報道されております。

これまでの作業で疲労が蓄積されているかと思えます。喉が渇いていなくても小まめな水分補給、涼しい場所で適宜休憩を取る等、体調管理に十分に注意しましょう。また、今月から収穫作業がスタートすることから労働安全にも努めましょう。

本だよりの配布対象
 会員、賛助会員、アグリサポート会員、各関係機関
 会員の皆様へ
 「いしかわ農業法人だより」のメール配信を希望する方は、協会事務局の牧野・山越・吉田までご連絡お願いいたします。
 牧野: gmakino@inz.or.jp
 山越: y-kazuki@inz.or.jp
 吉田: syogo-y@inz.or.jp